

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1271800284		
法人名	社会福祉法人 ゆりの木会		
事業所名	グループホーム ゆりの木苑		
所在地	〒283-0062 千葉県東金市家徳752-12		
自己評価作成日	平成30年1月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/12/index.php
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成30年2月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念 「夢と感動、そして安心と楽しさ」 基本指針 ホスピタリティ:心を込めて、礼儀正しく明るい笑顔で接します。リスペクト:個人を尊重し、プライバシーを大切にします。パーソナルケア:施設の多機能性を活かし、その人にあったケアを提供します。プロフェッショナルケア:認知症に対する理解を深め、技術研鑽に励みチームケアに努めます。コミュニティアクション:地域との関わりを大切に開かれた施設を目指します。という5つの指針のもと、グループホームという家庭的な環境の中で、お一人おひとりが持っている力を発揮できるように、そして笑顔の多い毎日を送って頂けるように、私たちが寄り添わせて頂きます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホームゆりの木苑」は同法人運営の特養老人ホーム・ケアハウス・デイサービスセンター・認知症対応型デイサービス等の他、各種介護保険サービス事業所があり、日頃の行き来や行事開催時に交流を図ると共に、相互に連携を図り、入居者のニーズに合わせた柔軟で適切なサービス提供を行っている。地域行事やサロンへの参加・施設行事への家族招待・ボランティアの受け入れ・地域の商店の利用等、様々な形で地域や家族及び外部との交流に取り組んでおり、入居者の生活活性化に繋がっている。また、医療機関とは急変時・緊急時の連携・情報交換が行えるよう対策を講じており、重度化・終末期における適切な支援の実施に向け、協力体制が整備されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の基本指針にもあるコミュニティコネクションという指針のもと、地域密着事業として、運営推進会議の定期開催や、認知症カフェの運営に管理者だけではなく職員も参加している。	「夢と感動・安心と楽しさ・尊厳をもち住み慣れた地域でのその人らしい生活の支援」と言う施設理念を掲げており、法人のホームページやパンフレット等に記載している。研修や会議等で理念について触れる等、理念の実現に向け意識付けを行うと共に、事業所内に掲示し、理念周知に向け、継続的に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人全体で取り組んでいる繋がり隊の活動や、カフェの開催、担い手養成講座、認知症サポーター養成講座開催、また、自治会への参加、市内、小・中・高との関わりなど多くの交流が随時行われている。	日頃から近隣住民と挨拶を交わす関係が築かれている。町内会への加入・地域行事の参加・近隣商店の利用等、積極的に交流を行い、施設活動の理解浸透に努めている。その他にも、法人全体で地域貢献に力を入れており、施設独自の活動を通して地域との触れ合う機会も多い。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症サポーターの開催、市と協働での家族介護教室の開催、担い手養成講座の開催などで、認知症になっても安心して暮らせる街づくりを目指し多くの取り組みを展開している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議で頂戴したご意見やご要望は、開催後直ちに、施設長を含めた話し合いを行った上で改善、修正に向けた検討を行っている。また、決定事項に関しては次回でのご報告をさせて頂いている。	運営推進会議は、年6回開催しており、市職員・地域包括支援センター職員・地域住民・入居者・家族等が出席している。会議では、施設の活動報告や意見・情報交換を行い、施設の理解促進及びサービスの質の向上に繋げている。また、広報誌等を活用し、出席率の向上及び認知症対応の理解促進に向け工夫を凝らしている。会議を意見収集の場として位置づけ、サービス向上に活かしている。	

【千葉県】グループホーム ゆりの木苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	各月で行われる運営推進会議へのご出席を頂く事や、年に1度行われる家族懇談会にもご出席いただき、現状のご報告をさせて頂いている。また、地域との関わりについて、日頃からの連絡を取り協力体制は整っている。	日頃から市に対して、業務における相談や報告を随時行い、連携を図っている。東金市地域密着型サービス連絡会に参加しており、市や同業者との意見・情報交換等を行い、協力関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月行われている、苑全体での拘束廃止委員会で、ご利用者お一人おひとりに合った支援がなされているかの報告と検討を行い、その他、拘束廃止に向けた、研修を年に1度全職員が受けている。	法人にて身体拘束排除委員会を設置し、委員会による身体拘束排除の研修・困難事例についての報告・検討・指導等が行われており、全職員への周知徹底・意識啓発を図っている。困難事例においては、家族の意向確認・検討・経過観察を行う等、安全確保及びその人らしい生活の支援の提供に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に1度の研修を全職員が受けている。また、リスクマネジメントと拘束廃止委員会が中心となり、スピーチロック等についても掲示しつつ、不適切なケアについても職員間で考え、廃止していく取り組みを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に1度の研修を全職員が受けている。個別の必要性については、カンファレンス時の話し合いの中で必要があれば、施設長も含めた話し合いが行われている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	退所される際などは、ご家族のご意向を含め、話し合う時間を設け、その様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度行われる家族懇談会のタイミングでアンケート(調査)を実施し、頂戴した意見は記録に残し、結果については、改善点も記載した上で全ご家族様へ配布(又は送付)させて頂いている。併せ、運営推進会議でも参加者へご確認頂いている。	家族の訪問時・電話連絡・運営推進会議等を通じて、直接意見や要望等を確認している。挙げた意見や要望においては、会議・連絡ノート等を活用し、全職員で検討し、適切な改善を図っている。他にも、季刊誌「すこやか」や「家族レター」に行事開催時の写真掲載や入居者の日々の様子を綴る等、家族との良好な関係構築にも努めている。	

【千葉県】グループホーム ゆりの木苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のグループホーム会議にて、職員の意見を吸い上げ、運営会議(理事長も含めた会議)の場で、その意見を発表し、反映できる様に努めている。	定期的に会議を開催すると共に、職員への個人面談も実施しており、職員からの意見・要望を確認する機会を設けている。全職員がどれかの委員会に所属し、それらの場で意見や提案が反映される仕組みが構築されており、意欲的に業務に取り込めるような環境整備がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課と、知識と技術のチェック(1回/年)を行い、自己目標を設定した上で主任(管理者)との面談を設けている。面談で受けた意見に関しては上司にも報告し、施設として整備を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	知識と技術の向上、職員のスキルアップを目指し年に1度の評価を実施している。そのことから、その項目に添った指導を日々OJT指導を行っている。また、研修に関しては年間プログラムに添った実施を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着連絡会で行う研修等への参加や、GH協会への加入と、協会主催の研修へ参加している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前面接を実施し、ご本人、ご家族からの聞き取り調査を行っている。得た情報をもとにご入居となり、ご入居から1カ月はセンサー方式等を活用しつつ、情報収集に努めた上で職員間での共有を図り支援に結びつけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前のご見学や、面談にて、管理者または、計画作成担当者がお話を伺っている。また、頂いたご意見をもとに、計画書の作成等を行っている。		

【千葉県】グループホーム ゆりの木苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご見学に来られた際等は、お話を伺った上で、他部署のご見学なども出来る限りおこなっている。また、ご入居後に関しては、どのようなサービスが必要であり、どのような方法があるか、出来る限り多くの情報を提供した上でご本人、ご家族と決定している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	グループホームとして、家庭の中での生活リハビリや、自立支援に重きを置き、出来ることを行って頂きながら、ご利用者に感謝を伝えること、日々、パートナーとして共にあることを目指し取り組んでいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃より、ご家族連絡は密に取らせて頂き、毎月の担当者からのお手紙の送付などを行うなどしご利用者の担当者を中心に関係の構築に努めている。また、支援内容などについても、計画書の作成についてもご家族の意見を頂戴している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご入居の際に、ご本人、ご家族へこれまでの生活を伺い、ご要望があった際は理美容店の利用の継続や馴染みのスーパーの利用等を行っている。	希望に応じて、知人・友人・家族の面会を随時受け付けると共に、外泊・一時帰宅・手紙や年賀状のやり取り等、馴染みの関係継続に配慮した支援を行っている。また、行き付けの理美容店や商店への外出及び併設の施設利用者との交流等、様々な形で馴染みの人や場所との関わりを継続できるよう配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中での座席の検討や、また、その日のその場面で職員はいつでも寄り添い適切な支援を行えるよう努力している。また、フロアを超え、その方の望む環境が提供出来る様、努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所される際などは、ご家族のご意向を含め、話し合う時間を設け、その後の関係者への情報提示に勤め、住みかえ後なども相談にのれる体制に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	カンファレンスを開催する際は、ご本人にもご参加頂き意見を伺っている。また、日々、ご本人から聞かれた意見は記録に残し、支援方法を決定する時に役立てている。	契約時に、本人・家族から意向・生活歴・身体状況等を確認すると共に、医療機関や他サービス事業所からの情報提供を受け、より詳細な情報の把握に努めている。また、会議・連絡ノート・申し送り等を活用して、全職員が常に新しい情報を共有できるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前調査票作成の段階で情報収集に努め、計画書や、個別支援計画の作成に繋がっている。また、居室内の環境整備等では、これまでのご家庭での使用物品などを使用させて頂くなどしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録(総合記録シート・ケース記録)と併せ、暮らしのシート(24時間生活シート)を担当職員が作成し、日々の支援に繋がっている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議は、3ヵ月～6ヵ月に1回開催。また心身に変化が見られた際、ご入院等された際は随時開催している。その際はご本人、ご家族への聞き取りなどを行い、看護師や管理栄養士、主治医などからも意見を頂きつつ作成している。	日頃から計画作成担当者と職員は記入シートの工夫や記録の徹底を行い、情報の収集・共有に努め、介護計画作成に活かしている。会議にて意見交換や検討を行い、現状に即した介護計画作成に取り組んでいる。定期的に介護計画の評価や目標達成状況の確認を行い、必要に応じて見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	総合記録シートとケース記録を活用し、記録を残している。その記録をもとに、1回/週 担当職員・看護師・計画作成担当者がモニタリングを実施し、変化を確認し、都度支援方法の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本指針にもあるパーソナルケアを目指し、看護師の協力体制はもとより、理学療法士、言語聴覚士、歯科医の往診や、その他、無料で行う訪問マッサージや通院などで必要な場合は有償サービスの利用等が受けられる様、整備、調整している。		

【千葉県】グループホーム ゆりの木苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	認知症サポーター養成講座での受講生や担い手養成講座受講生の力をお借りしつつ、中庭などの菜園作りや、近隣のゴミ拾いの参加、その他、地区の行事への参加などを行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご入居された際に、主治医の意向については、ご本人、ご家族、またその医師へご意向を確認させて頂いている。希望があれば、主治医として継続した定期受診などを受けて頂けるよう、ご家族の協力のもと通院の継続を支援させて頂いている。	定期的に内科の往診を実施すると共に、希望のかかりつけ医への受診も行われており、適切な医療支援に努めている。また、必要に応じて職員が通院に付き添い、医師や家族との情報共有を図っている。協力病院やかかりつけ医とは緊急時に適切な対応が得られるよう、協力体制が整備されている。他にも、併設施設の看護職員による健康管理・状況に応じた支援や報告・医療相談・助言等が行われており、入居者・家族・職員の安心に繋がっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の記録に関しては、週1回の確認と評価を担当看護師が行っている。また、受診に関しても専用のシートを活用し、看護師との協働に努め、定期受診に繋げている。常に相談できる体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された方がおられる場合、浅井病院に関しては毎週1回行われているカンファレンスに、グループホーム職員が出席させて頂き時現状の確認と意見交換を行っている。他病院に関してはソーシャルワーカーとの関係作りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご契約を頂く際に、重度化の指針については詳細にご説明させて頂いている。そのうえで、重度化された場合は指針に沿ったの支援を行っている。医療依存度が高まった場合などは、主治医の説明を共に確認させて頂き、今後の支援について、看護師を含め検討させて頂いている。	重度化・終末期においては、契約時に延命希望確認書・意向確認書を交わしている。関係機関とは状況に応じた適切な支援が行えるよう体制を整えると共に、会議等で入居者・家族の意向や変化に応じた対処方法の確認や検討を行う等、安心して納得が得られる支援の統一に向け取り組んでいる。	重度化・終末期においては、契約時に延命希望確認書・意向確認書を交わしているが、その後意向の確認が行われていない。今後は再度、家族の意向を確認する等、より安心して納得が得られる終末期の支援に繋げていただく事を期待します。

【千葉県】グループホーム ゆりの木苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルの更新を定期的に行い、職員へ配布するとともに、グループホーム会議などで議題に取り上げレクチャーを実施する機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人で行っている、毎月の防災会議への参加と並行し、年3回の防災訓練を実施している。地域との協力体制については30年度の課題として現在、詳細を検討中。	スプリンクラー・火災報知器・自動通報機等の消防設備を設置すると共に、年2回、併設施設と合同で消防避難訓練を実施している。今年度は、消防署立会いの下、地震想定練等を実施している。現在は地域との相互協力体制構築に向け取組み中である。	定期的に避難訓練を実施し、地震を想定した具体的な避難誘導策を身につけている。今後は夜間・災害等、様々なケースを想定した訓練を実施し、状況に応じた避難方法及び迅速な対応の周知を図っていただく事を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉かけについては拘束廃止委員が中心となり、スピーチロック廃止に向けた取り組みを行っている。また、パーソンセンタードケアから接遇や言葉かけのマニュアルを作成している。	接遇においては、全職員が個人尊重を意識し、その人に合った言葉使いや対応を行っている。個人情報についても、個人ファイルの取扱目的・保管場所・写真掲載の承認・個人名や会話内容の工夫等、プライバシー保護に配慮した対応に努めている。また、法人の委員会による研修や会議等で制度や重要性についての周知・指導が行われており、個人情報保護の理解徹底を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スピーチロック廃止と並行し、言葉かけをさせて頂く際は、疑問形で伺うまた、選択出来る様環境を整える等しつつ、ご利用者が自己決定できるよう全職員で注意喚起し合い行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の暮らしのシートに添って支援できる様努力している。また、受診同行などにより、職員体制が整わない場合であっても、朝の申し送りの際に、出勤職員で話し合い、ご利用者にとって最良の選択が出来る様努力している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時や入浴前の洋服選びや、起床時の整容、理美容利用時の希望の確認を行っている。また、希望時は、洋服の買い物の同行も行っている。		

【千葉県】グループホーム ゆりの木苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好調査を行いつつ、厨房と協働し、週1回選択メニューを選んで頂いている。また、希望に添って出前食や外食会を企画している。また、月1回の料理クラブの開催と、日々食事の盛り付けや、後片付けはご利用者と共に実施している。	食事は併設施設の厨房にて調理され、管理栄養士監修のメニューや旬の食材及び入居者の嗜好に配慮した食事提供が行われている。定期的に外食会や行事食の実施・特別食の提供・手作りおやつ・出前を行う等、食に対する楽しみを支援している。他にも、「料理クラブ」を開催し、計画から食事提供までの全工程を入居者が関りながら行う活動を行い、入居者の張り合いや自信、更に心身の維持や向上に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスは厨房管理しており、食事、水分に関しては毎食事摂取量の記録と確認を実施。また、食事が進まない方に関しては嗜好調査と並行し、主治医、管理栄養士の協力のもと、嗜好に合わせた補助食意品の提供を都度検討している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの実施。不足部分の介助をさせて頂いている。また、全ご利用者を対象に、定期的に(1回/月)歯科医師の回診にて口腔内のケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日々の記録をもとにカンファレンス時に誘導時間等の見直しを行うとともに、苑全体での取り組みである「オムツO運動」を取り入れ、お一人お一人の支援方法の見直しを担当者が中心となり行っている。	排泄チェックリスト表や記録シート等を活用しながら個々の排泄パターンを把握すると共に、時間や状況に応じて、声掛け・トイレ誘導で対応する等、おむつゼロ運動に向け、取り組んでいる。また、水分摂取の励行・乳製品の活用・日常的な運動の実施等を通じて、自然排便を促すと共に、必要に応じて、看護職員や医師と相談しながら、適切な排便コントロールを行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄の記録をもとに、看護師と共に排便コントロールの話し合いをカンファレンス時に行っている。そのうえで、活動量の確認や、腹部マッサージや声掛けの確認、支援の統一、その他、水分量の確認と共に、補助食品の検討もしている。		

【千葉県】グループホーム ゆりの木苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的な時間は設定しているが、希望に添った実施ができる様、都度、誘導時の声掛けに注意している。また、中間浴の利用や希望時はフローアを替えての支援、その他、季節に合わせ柚子湯や花風呂を企画している。	入浴は毎日実施しており、希望に応じて回数・時間等、柔軟に対応している。また、希望や身体状況に応じて、併設施設の機械浴槽を使用する事も可能となっており、安全で快適に入浴できるような設備が整っている。その他にも、状況に応じて、清拭・部分浴・シャワー浴を実施する等、入居者の清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日々の観察と記録を実施。その上で、適切な環境が整っているか、担当者が中心となり確認している。また、日中の過ごし方も観察させて頂き、疲労感が見られた際の臥床や、安眠確保のための活動の確認を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内服薬が変更になった場合や追加された場合などは、観察と記録を強化し、医師への報告を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カンファレンス時に、センター方式等を活用しつつ情報収集した上で、話し合い、支援内容を決定している。また、ご家族からの意見なども暮らしに反映できる様努力している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望時やお外に行きたいご様子が見受けられた際は、出来る限り希望に添える様、職員間で協力し合い散歩やドライブを日々行っている。また、普段いけない場所などは、行事企画をたて実施している。	入居者の希望や天候に応じて、散歩・買い物・ドライブ等の外出を行っている。また、定期的に、行事委員会による外出行事が企画・実施されており、入居者の季節や希望に配慮しながら戸外での楽しみを支援している。他にも、敷地内の花壇やウッドデッキを活用しての植物の手入れや外気浴の実施・隣接デイサービス内にある認知症カフェでのお茶飲み等、気軽に外出ができ、更に楽しめるよう支援している。	

【千葉県】グループホーム ゆりの木苑

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望がある方はご家族のご了解のもと、ご本人でお金の管理をされている方もおられる。パン屋や、煎餅屋など、苑に来た際や、お買い物の際にご自身で支払をされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年1回の年賀状は全ご利用者と担当者が協働して作成している。また、希望時はいつでも電話連絡やお手紙を送ることへの支援をさせて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	環境整備係を中心として、フロア内外の環境整備・点検を行っている。また、季節感を取り入れる為の工夫としては、ご利用者と共に季節に合った創作物の作成等で装飾を行っている。	施設は平屋建で、館内はバリアフリー環境となっており、十分な介助スペースが確保される等、入居者の安全面に配慮した造りとなっている。また、共有スペースは明るく開放的な雰囲気作りがなされており、ソファーやテーブルも設置され、入居者一人ひとりがくつろげる環境となっている。他にも、季節感を感じる飾り付けを施し、入居者と職員が楽しみを共有できるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	談話スペースの利用や、希望時は居室でお過ごしになられるたり、テーブル席やソファ席の選択をご利用者にして頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご入居の時点、または都度のご来苑時に、ご家族からの差し入れや持ち込みがあるなど、ご協力を頂いている。また、ご本人の希望や必要と思われる物品に関しても担当者が中心となり、ご家族へ依頼している。	入居者・家族の希望に応じて、馴染みの物を持ち込む事が可能となっており、居心地良く生活できるよう配慮している。全室畳敷きとなっているものの、ベットを使用する事も可能となっており、生活歴に配慮した居室作りが行われている。また、鍵・収納が設置されており、プライバシーの確保がなされていると共に、洗面台・エアコンが設置されており、利便性・快適な生活に配慮した設計となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境整備係を中心に、動線の確保や、安全な環境作りに努めている。また、必要な情報は掲示するなどして、ご利用者がわかりやすくなるよう、工夫している		